

# 港区立筭小学校 令和6年度道徳授業地区公開講座

令和6年6月28日(金)

13:35～14:20 道徳授業

児童下校

14:35～15:15 意見交換会

※道徳授業は各教室で担任が行います。

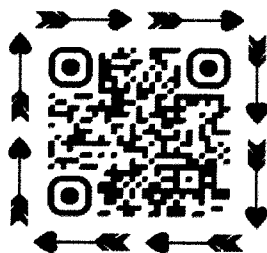
※意見交換会は、各学年1組の教室で行います。

## 道徳授業 一覧

学年	道徳的な価値	教材名
1年	規則の尊重	「おかしくないかな」
2年	親切、思いやり	「ぐみの木と小鳥」
3年	規則の尊重	「家のパソコンで」
4年	規則の尊重	「雨のバス停留所で」
5年	親切、思いやり	「くずれ落ちただんボール箱」
6年	親切、思いやり	「温かい行為が生まれるとき」

各学級の学習指導案は  
こちらからご覧ください。

道徳授業地区公開講座の感想、ご意見は  
こちらから入力をお願いします。



※読み取り、入力が難しい方は受付でお申し出ください。



# 第1学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時

第1学年1組 28名

授業者 平山 めぐみ

主題名 大切な きまり 内容項目(規則の尊重)

ねらい 公共物や公共の場所を使うとき、周りの人々や、次に使う人の気持ちを考えることが大切であることに気付き、約束やきまりを守ろうとする判断力を育てる。

教材 「おかしく ないかな」 (出典) 「みんなのどうとく1」 Gakken

展開

	○学習活動「」主な発問・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>○みんなのもの(公共物や公共施設)について考える。</p> <p>「自分やみんなが使うけど、自分のものではないものってなんだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の遊具</li> <li>・学校の黒板</li> <li>・学校の机やイス</li> <li>・図書館の本</li> </ul>	<p>◇発問によって、価値の方向付けをする。</p>
	<p>みんなのものやばしょをつかうとき、たいせつなことは、どんなことだろう。</p>	
展開前段	<p>○教材を読んで考え、話し合う。</p> <p>「よくないと思う場面はどれですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滑り台に反対から上っている。</li> <li>・水飲み場で遊んでいる。</li> <li>・ベンチに靴で乗っている。</li> </ul> <p>「その行動がよくないのはどうしてだと思いますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの迷惑になる。</li> <li>・困る人がいる。</li> <li>・次に使う人がいやな気持ちになる。</li> </ul> <p>「そんな行動をする人は、どんな気持ちでしているのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかったらいい。</li> <li>・バレないだろう。</li> <li>・みんなもそうだろう。</li> </ul> <p>○実際に体験して考える。</p> <p>「ここに借りたいと思った本があります。こちらを渡されたらどんな気持ちになりますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな方を借りたい</li> <li>・悲しい気持ち</li> <li>・自分も大切にしなそう</li> <li>・嫌だな</li> </ul>	<p>◇スクリーンに挿絵を映して、教材提示を行う。</p> <p>◇公園や学校の中はみんなのものということを確認、周りのことを考えていない行動を取り上げて、よくないことということを抑えさせる</p> <p>◇何が問題なのかを見付け、理由まで考えられるようにさせる。</p> <p>◇「みんなのために」守らなくてはいけないという規範意識をもたせられるようにする。</p> <p>◇周りの人や次に使う人に意識が向くように声掛けをする。また、ついやってしまうという自分本位な心の弱さにも触れる</p> <p>◇大切につかわれていた本と、雑に扱われていた本両方を準備し、ロールプレイを行う。</p>
展開後段	<p>○今までの経験を振り返り、みんなが使うものや場所について考える。</p> <p>「みんなを使うものや場所は、どのように使えばよいのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の人のことを考えて使う。</li> <li>・きまりを守って使う。</li> <li>・みんなのことを考えて、大切に使う。</li> </ul>	<p>☆周りの人々や次に使う人の気持ちを考えて、公共物や公共の場所を使うことについて考えを深めていたか。(発言・ワークシート)</p>
終末	<p>○教師の説話を聞く。</p> <p>公共物についての教師の経験を話す。</p>	<p>◇きまりや約束を守ったことで、気持ちよく過ごせた教師の出来事を伝える。</p>

# 第1学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日（金）第5校時

第1学年2組 28名

授業者 増田 美奈子

主題名 大切な きまり 内容項目（規則の尊重）

ねらい 公共物や公共の場所を使うとき、周りの人々や、次に使う人の気持ちを考えることが大切であることに気付き、約束やきまりを守ろうとする判断力を育てる。

教材 「おかしく ないかな」（出典）「みんなのどうとく1」Gakken

展開

	○学習活動「」主な発問・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>○みんなのもの（公共物や公共施設）について考える。 「自分やみんなが使うけれど、自分のものではないものってなんだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の遊具</li> <li>・学校の黒板</li> <li>・学校の机やイス</li> <li>・図書館の本</li> </ul>	<p>◇発問によって、価値について捉えられるようにする。</p>
	<p>みんなのものやばしょをつかうとき、たいせつなことは、どんなことだろう。</p>	
展開前段	<p>○教材を読んで考え、話し合う。 「よくないと思う場面はどれですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滑り台に反対から上っている。</li> <li>・水飲み場で遊んでいる。</li> <li>・ベンチに靴で乗っている。</li> </ul> <p>「その行動がよくないのはどうしてだと思いますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの迷惑になる。</li> <li>・困る人がいる。</li> <li>・次に使う人がいやな気持ちになる。</li> </ul> <p>「そんな行動をする人は、どんな気持ちでしているのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかったらいい。</li> <li>・バレないだろう。</li> <li>・みんなもそうだろう。</li> </ul> <p>「みんなで使うものや場所は、どのように使えばよいのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の人のことを考えて使う。</li> <li>・きまりを守って使う。</li> <li>・みんなのことを考えて、大切に使う。</li> </ul>	<p>◇スクリーンに挿絵を映して、教材提示を行う。</p> <p>◇公園や学校の中はみんなのものということを確認、周りのことを考えていない行動を取り上げて、よくないことという点を捉えさせる。</p> <p>◇何が問題なのかを見付け、理由まで考えられるようにさせる。</p> <p>◇「みんなのために」守らなくてはいけないという規範意識をもたせられるようにする。</p> <p>◇周りの人や次に使う人に意識が向くように声掛けをする。また、ついやってしまうという自分本位な心の弱さにも触れる。</p>
展開後段	<p>○自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める。 「約束やきまりを守って、「よかったな」といい気持ちになったことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ろうかを走らなかったら、先生に怒られなかった。</li> <li>・話をいい姿勢で聞いていたら、褒められた。</li> </ul>	<p>☆公共物に接するときの自己の生き方についての考えを深めることができたか。（発言・ワークシート）</p>
終末	<p>○教師の説話を聞く。 公共物についての教師の経験を話す。</p>	<p>◇きまりや約束を守ったことで、気持ちよく過ごせた教師の出来事を伝える。</p>

# 第1学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時

第1学年3組 29名

授業者 新妻 光里

主題名 大切な きまり 内容項目(規則の尊重)

ねらい 公共物や公共の場所を使うとき、周りの人々や、次に使う人の気持ちを考えることが大切であることに気付き、約束やきまりを守ろうとする判断力を育てる。

教材 「おかしく ないかな」 (出典) 「みんなのどうとく1」 Gakken

展開

	○学習活動「」主な発問・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>○みんなのもの(公共物や公共施設)について考える。 「自分やみんなが使うけれど、自分のものではないものってなんだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園の遊具</li> <li>学校の黒板</li> <li>学校の机やイス</li> <li>図書館の本</li> </ul>	<p>◇本時の学習する話題について、クイズ形式で発問をし、児童の興味を引き付けるようにする。</p>
	<p>みんなのものやばしょをつかうとき、たいせつなことは、どんなことだろう。</p>	
展開前段	<p>○教材を読んで考え、話し合う。 「よくないと思う場面はどれですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>滑り台に反対から上っている。</li> <li>水飲み場で遊んでいる。</li> <li>ベンチに靴で乗っている。</li> </ul> <p>「その行動がよくないのはどうしてだと思いますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなの迷惑になる。</li> <li>困る人がいる。</li> <li>次に使う人がいやな気持ちになる。</li> </ul> <p>「そんな行動をする人は、どんな気持ちでしているのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楽しかったらいい。</li> <li>バレないだろう。</li> <li>みんなもそうだろう。</li> </ul> <p>「みんなで使うものや場所は、どのように使えばよいのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の人のことを考えて使う。</li> <li>きまりを守って使う。</li> <li>みんなのことを考えて、大切に使う。</li> </ul>	<p>◇スクリーンに挿絵を映して、教材提示を行う。</p> <p>◇公園や学校の中はみんなのものということを確認、周りのことを考えていない行動を取り上げて、よくないことということを抑えさせる。</p> <p>◇何が問題なのかを見付け、理由まで考えられるようにさせる。</p> <p>◇「みんなのために」守らなくてはいけないという規範意識をもたせられるようにする。</p> <p>◇周りの人や次に使う人に意識が向くように声掛けをする。また「ついやってしまう」という自分本位な心の弱さにも触れる。</p> <p>☆周りの人々や次に使う人の気持ちを考えて、公共物や公共の場所を使うことについて考えをもったか。(発言)</p>
展開後段	<p>○自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める。 「約束やきまりを守って、「よかったな」と、いい気持ちになったことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ろうかを走らなかったら、先生に怒られなかった。</li> <li>話をいい姿勢で聞いていたら、褒められた。</li> </ul>	<p>☆公共物に接するときの自己の生き方についての考えを深めることができたか。(発言・ワークシート)</p>
終末	<p>○教師の説話を聞く。 公共物についての教師の経験を話す。</p>	<p>◇きまりや約束を守ったことで、気持ちよく過ごせた教師の出来事を伝える。</p>

## 第2学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時

第2学年1組 25名

指導者 行田 さゆり

主題名 相手のことを思って 内容項目(親切、思いやり)

ねらい 相手のことを考えて優しく接するよさに気づき、身近な人に温かい心で親切にしようとする態度を育てる。

教材名 「ぐみの木と小鳥」(出展)「みんなのどうとく2」Gakken

展開

	○学習活動「主な発問」・予想される児童の反応など	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>○親切についての経験を交流する。 「親切にしてもらったり親切にしている人を見たりしたことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っているときに助けてくれた。</li> <li>・消しゴムを貸してもらったことがある。</li> <li>・席を譲っているのを見たことがある。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「親切」について考えよう。</div>	<p>◇本時の学習に向かうような話題を提示する。</p> <p>◇身近な場所での親切や世の中での親切など様々な場所での親切があることに触れる。</p>
展開前段	<p>○「ぐみの木と小鳥」を読んで話し合う。 「嵐が止むのを持っている間、小鳥はどんなことを考えていたでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嵐はこわいな。でもりすさんは一人できっともつとこわいと思う。嵐だけどやっぱり行こうかな。</li> <li>・ぼくのことを待っているかもしれない。大丈夫かな。心配だな。</li> <li>・危ないから嵐がやんでからにしてもいいかな。</li> <li>・昨日も行ったから、今日は行かなくても平気かな。</li> </ul> <p>「小鳥が嵐の中、ぐみの実を届けてくれたとき、りすはどんな気持ちだったでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんな嵐の中、自分のためにきてくれてうれしい。</li> <li>・小鳥さんも、ぐみの木も心配してくれてありがとう。</li> <li>・こんなにおいしいぐみの実を食べたのは初めてだ。</li> </ul> <p>「なぜ嵐の中でも小鳥はりすさんのためにぐみの実を届けたのだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐみの木にお願いされたから。</li> <li>・りすさんのことが心配だったから。</li> <li>・もし自分が行かなかつたらりすさんがかわいそうだから。</li> <li>・危険でも少しがんばればきつとりすさんは喜んでくれるからがんばりたい</li> </ul>	<p>◇小鳥が行くか行かないか悩んでいる気持ちを表すグラフに名前カードを貼る。</p> <p>◇行くか行かないか迷いがあるのはなぜか考える時間をもつ。</p> <p>◇挿絵をもとに、状況を想像しやすくする。</p> <p>◇小鳥とりす、それぞれの思いを考え、板書し、それぞれが相手を思い合っていることに気付かせる。</p> <p>◇行動の裏にある小鳥の思いを想像することで「親切とは何か」の考えを深める。</p>
展開後段	<p>○自分の経験を振り返り、親切についての考えを深める。 「今まで自分ができた親切やできなかった親切はありますか。自分のことを振り返り、ワークシートに書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒になくしたものを探してくれた。</li> <li>・わからないことがあったときにやさしく教えてくれた。</li> <li>・困っているのが分かったけど、声をかけることができなかった。</li> </ul>	<p>◇改めて自分のためにしてもらった親切があるか、人のためにできた(できなかった)親切があるかこれまでの経験を振り返る時間を取り、自分自身を見つめ直す。</p> <p>☆親切について考えを深め、今までの自分を振り返ることができたか。</p>
終末	○教師の説話を聞く。	

# 第2学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日（金）第5校時

第2学年2組 26名

授業者 宇野 英理子

主題名 思いやりの心で 内容項目 (親切、思いやり)

ねらい 困っている人を思いやり、相手のことを考えることの大切さが分かり、すすんで親切にしようとする心情を育てる。

教材 「ぐみの木と小鳥」 (出典) 「みんなのどうとく2」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>○「親切」の意味や行動について確かめる。                      「「親切」ってどういうことでしょうか？」                      「親切にしてもらったことはありますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っているときに助けてくれた。</li> <li>・けがをしたときに「大丈夫。」と聞いてくれた。</li> </ul> <p>「親切にするとどういう気持ちになるか、考えてみましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「親切」について考えよう。</div>	<p>◇本時の学習に向かうような話題を提示する。</p>
展開前段	<p>○「ぐみの木と小鳥」を読み、話し合う。                      「小鳥がぐみの実をもって行ったとき、りすはどんな気持ちになったでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしい。</li> <li>・ありがとう。ぐみの木に会いたいな。</li> </ul> <p>「小鳥はどんな気持ちになったでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喜んでくれてうれしい。</li> </ul> <p>○「嵐がやむのを待っている間、小鳥はどんな気持ちだったのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怖いけど、りすさんはきっと待っているから行こう！</li> <li>・嵐だからこそ、行かなかつたら、きっと悲しいとか、寂しいと思う。</li> </ul> <p>○「嵐の中、小鳥がたどりついたとき、りすに「ありがとう」と言ってもらえた小鳥はどんな気持ちでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こちらこそ、うれしいよ。</li> <li>・いい気持ちだな。</li> </ul>	<p>◇挿絵をもとに、状況を想像しやすくする。</p> <p>◇役割演技を通して、りすの元へ行くことを迷う小鳥と、飛んで行くことを決心した小鳥の気持ちの双方を理解できるようにする。</p>
展開後段	<p>○親切についての体験を伝え合う。                      「どんなとき、友達から「ありがとう。」を言われましたか。そのとき、どんな気持ちになりましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落とし物を拾ってあげたら「ありがとう。」と言ってもらえて嬉しかった。</li> </ul>	<p>◇「親切にしてよかった」という思いを深めさせるとともに、親切にできなかった体験を素直に語る姿があれば認め、励ます。</p> <p>☆親切にすることのよさや大切さについて、自分なりに考えを深めていたか。(記述、発言)</p>
終末	<p>○親切についての教師の体験を紹介する。</p>	

## 第2学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日（金）第5校時  
第2学年3組 26名  
授業者 滝川 幸恵

主題名 思いやりの心で 内容項目（親切、思いやり）  
ねらい 困っている人を思いやり、相手のことを考えることの大切さが分かり、すすんで親切にしようとする心情を育てる。

教材 「ぐみの木と小鳥」 （出典）「みんなのどうとく2」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>○親切にしてもらって嬉しかった経験を想起する。 「親切にしてもらって嬉しかったことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っているときに助けてくれた。</li> <li>・消しゴムを貸してもらったことがある。</li> <li>・けがをしたときに「大丈夫。」と聞いてくれた。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「親切」について考えよう。</div>	<p>◇本時の学習に向かうような話題を提示する。</p>
展開前段	<p>○「ぐみの木と小鳥」を読んで考え、話し合う。 「嵐がやむのを待っている間、小鳥はじっと何を考えていたでしょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">行けない</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嵐はこわいな。 ・明日行けばいいや。</li> <li>・ぐみの木さんは「嵐がやんでから」と言っていた。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">行く</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りすさんが心配。</li> <li>・りすさんに「また明日」と約束した。</li> <li>・ぼくが行かないと、りすさんが困る。</li> </ul> <p>「りすに「ありがとう。」と言われて、小鳥はどんな気持ちになったでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ありがとう」と言われて気持ちがいいな。</li> <li>・りすさんが喜んでくれて嬉しい。</li> <li>・怖かったけれど、行ってよかったな。</li> </ul>	<p>◇挿絵を基に、状況を想像しやすくする。</p> <p>◇役割演技を通して、りすの元へ行くことを迷う小鳥と、飛んで行くことを決心した小鳥の気持ちの双方を理解できるようにする。</p> <p>◇親切な行為の意義を実感できるように小鳥とりすの思いを板書をする。</p>
展開後段	<p>○親切についての体験を伝え合う。 「どんなとき、友達から「ありがとう。」を言われましたか。そのとき、どんな気持ちになりましたか。また、「親切にすればよかったな」と思ったことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落とし物を拾ってあげたら「ありがとう。」と言ってもらえて嬉しかった。</li> <li>・一人でいる1年生に、自分から声を掛けてあげればよかった。</li> </ul>	<p>◇「親切にしてよかった」という思いを深めさせるとともに、親切にできなかった体験を素直に語る姿を認め、励ます。</p> <p>☆親切にすることのよさや大切さについて、自分なりに考えを深めていたか。（記述、発言）</p>
終末	<p>○親切についての教師の体験を紹介する。</p>	



# 第3学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時  
 第3学年1組32名  
 授業者 石原 淳佑

主題名 安全にくらすために 内容項目(規則の尊重)  
 ねらい 危険から身を守るために約束やきまりがあることを考えさせ、自分勝手な行動を慎み、約束やきまりを守って安全に過ごそうとする態度を養う。

教材「家のパソコンで」 (出典)「みんなのどうとく3」 Gakken  
 展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○事前にとっていたアンケート(家でのかまりや約束について)の結果を見る。 「家ではどんなかまりがありますか。」 「かまりや約束を守れなかったときはどんな時ですか。」 ・友達と一緒に楽しくなってしまった。 ・少しぐらいならばれないかなと思った。	◇これまでの自分の行動を振り返って約束やかまりについて目を向けさせる。 ◇学校生活の約束やかまりについてもふれる。
展開前段	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                         やくそくやかまりは、どうしてまもらなければいけないのだろう。                     </div> ○教材を読み、話し合う。 「ぼくもだいじょうぶだよな。」とゲームを始めたてつおは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・みんなもやっているからぼくもやってみよう。 ・ちょっとだけなら、ばれないかな。 「てつおは、動かない画面を見ながら、どんな気持ちでお母さんの帰りを待っていたのでしょうか。」 ・動かなくなってしまった、どうしよう。 ・やっぱり約束をやぶったからだめだったのかな。 ・お母さんに怒られてしまう。 「なぜこの約束があったのでしょうか。」 ・危ないことから自分を守るため。 ・まだ自分では責任がとれないから。 ・	◇パソコンのゲームに夢中になっているてつおの気持ちに共感できるようにする。 ◇友達もやっているから、少しぐらいなら大丈夫だと過信しているてつおの気持ちに気付かせる。 ◇約束を破って後悔している気持ちや、家族に迷惑をかけるかもしれないと、心配しているてつおの気持ちに共感させる。 ◇約束を守って行動した時と約束を守らずに行動した時の違いに着目させ、約束の意味に気付かせる。
展開後段	○身の回りの約束や決まりについて考える。 「約束や決まりは何のためにあるのでしょうか。」 ・自分たちが安全に過ごせるため ・みんなが気持ちよく過ごせるため	◇身近に使うタブレットや学校生活のルールを出し、身近なこととしてとらえられるようにする。 ☆約束や決まりの意義を理解し、決まりを守ることの大切さを多面的に考えていた(記述、発言)
終末	○本時の振り返りをする。 ・ワークシートに自分の考えを記入することを通し、今日の学習について振り返る。	

# 第3学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時  
 第3学年2組32名  
 授業者 岡本 優

主題名 安全にくらすために 内容項目 (規則の尊重)  
 ねらい 危険から身を守るために約束やきまりがあることを考えさせ、自分勝手な行動を慎み、約束やきまりを守って安全に過ごそうとする態度を養う。

教材 「家のパソコンで」 (出典) 「みんなのどうとく3」 Gakken  
 展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○家族で決めている約束や決まりを紹介する。 「家では、どんな約束や決まりがありますか。」 ・遊びに行くときは、誰とどこに行くのか、いつ帰るのか話してから出かけている。 ・ゲームは1日□時間までと約束している。	◇家で決めている約束や決まりについて話し合い、本教材への導入を図る。
展開前段	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                         やくそくやきまりは、どうしてまもらなければいけないのだろう。                     </div> ○教材を読んで話し合う。 「ぼくもだいじょうぶだよな。とゲームを始めたてつおは、どんな気持ちだったのでしょうか。」 ・無料だから大丈夫だ。 ・きっとばれない。 ・おもしろいゲームがいっぱいだ！  「てつおは、動かない画面を見ながら、どんな気持ちでお母さんの帰りを待っていたのでしょうか。」 ・無料って書いてあったのに。 ・怒られるだろうな。 ・約束を守ればよかった。  「ばれなければいいのにな。」 ・確かに。 ・とばければいい。 ・両親がてつおをインターネット上のトラブルから守るために考えてくれた約束だから正直に話す。	◇パソコンのゲームに夢中になっているてつおの気持ちに共感できるようにする。 ◇友達もやっているから、少しくらいなら大丈夫だと過信しているてつおの気持ちに気付かせ、自分にも似た経験がないか考えさせる。 ◇約束を破って後悔している気持ちや、家族に迷惑をかけるかもしれないと、心配しているてつおの気持ちに共感させる。  ◇理想とする考えだけにならないようにする。
展開後段	○約束や決まりの意義を話し合う。 「約束や決まりを守るためには、どんな考えが大切になるでしょう。」 ・なぜこの約束があるのか考えること。 ・守ると決めたことは守ろうとする心の強さをもつ。	◇てつおの失敗をもとに、自分の事として考えられるように促す。  ☆約束や決まりの意義を理解し、守ることへの理解を深めていたか。(発言)
終末	○本時の振り返りをする。 ・ワークシートに自分の考えを記入することを通し、今日の学習について振り返る。	

# 第3学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日（金）第5校時

第3学年3組32名

授業者 佐藤 匠

主題名 安全にくらすために

内容項目（規則の尊重）

ねらい 危険から身を守るために約束やきまりがあることを考えさせ、自分勝手な行動を慎み、約束やきまりを守って安全に過ごそうとする態度を養う。

教材「家のパソコンで」（出典）「みんなのどうとく3」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○家庭でのきまりや約束について発表する。 「家ではどんなきまりや約束がありますか。」 「きまりや約束を守れなかったときはありますか。それはどうしてですか。」 ・友達もやっているから。 ・楽しくなってしまったから。	◇これまでの自分の行動を振り返って約束やきまりについて目を向けさせる。 ◇学校生活の約束やきまりについても触れる。
展開前段	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     やくそくやきまりは、どうしてまもらなければいけないのだろう。                 </div> ○教材を読み、話し合う。 「ぼくもだいじょうぶだよな。」とゲームを始めたてつおは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ゆうすけもやっているし大丈夫。 ・無料と書いてあるから安心。  「てつおは、動かない画面を見ながら、どんな気持ちでお母さんの帰りを待っていたのでしょうか。」 ・怒られる。 ・やめておけばよかった。	◇パソコンのゲームに夢中になっているてつおの気持ちに共感できるようにする。 ◇友達もやっているから、少しくらいなら大丈夫だと過信しているてつおの気持ちに気付かせ、自分にも似た経験がないか考えさせる。 ◇約束を破って後悔している気持ちや、家族に迷惑をかけるかもしれないと、心配しているてつおの気持ちに共感させる。
展開後段	○身の回りの約束や決まりについて考える。 「約束や決まりは何のためにあるのでしょうか。」 ・危険から身を守るため。 ・安全に生活するため。	◇タブレットルールや校内のルールについて触れ、自分事として考えられるよう促す。  ☆約束や決まりの意義を理解し、決まりを守ることの大切さを多面的に考えていた（記述、発言）
終末	○本時の振り返りをする。 ワークシートに自分の考えを記入することを通し、今日の学習について振り返る。	

# 第4学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時  
 第4学年1組28名  
 授業者 佐藤 弘子

主題名 気持ちよく生活するために 内容項目(規則の尊重)

ねらい きまりやルールは、みんなが気持ちよく生活するためにあることを理解し、すすんできまりを守ろうとする態度を養う。

教材「雨のバス停留所で」 (出典)「みんなの道徳4」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○ 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識をもつ。 「みんなが使う場所にはどのようなきまりがありますか。」 ・図書館では走らない。 ・ベンチに土足で上がらない。 ・横断歩道では青で渡る。	◇日常生活の場面を思い出させきまりや約束を守れなかった気持ちから価値への方向付けを図る。
展開前段	○資料「雨のバス停留所で」を読んで話合う。  「よしこさんがバスの停留所の先頭に並んだ時、周りの人はどう思ったでしょう。」 ・この子、ずるいな。 ・順番を守ってよ。  「お母さんに横顔を見て、よしこさんはどんなことを考えたでしょう。」 ・どうして連れ戻されたのかわからない。 ・なんでお母さんは怒っているの。  「お母さんはよしこさんにどんなことに気付いてほしかったのでしょうか」 ・バス停に並んでいたわけではないけど順番があること。 ・よしこさんは自分のことしか考えていないから周りの人のことも考えてほしいということ。	◇なぜ母に連れ戻されたのか分からず、不満を抱えている様子について押さえ、よし子の自己中心的な考えに気付かせる。 ◇「きまりではないのに、なぜお母さんは怒ったのだろう。」と補助発問することで規則でなくても、社会には一人一人が周りのことを考え行動することが必要な場面があることに気付かせる。
展開後段	○自己の生き方について考える。 「今日の学習を通して、みんなが気持ちよく過ごすために大切なことを考えましょう。」 ・周りのことを考える。 ・迷惑をかけない。	◇ワークシートを用いて考えを整理しやすくする。 ☆みんなが気持ちよく過ごせるようにする態度を養うことができたか。(発言、ワークシート)
終末	○教師の説話を聞く。	

みんなが気持ちよく生活するとはどういうことか考えよう。

# 第4学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時

第4学年2組27名

授業者 大場 真弥

主題名 気持ちよく過ごすために 内容項目(規則の尊重)

ねらい 自分のことばかり考えるのではなく、相手や周りの人の立場に立って考え行動することの大切さに気付き、すすんできまりを守ろうとする態度を養う。

教材「雨のバス停留所で」(出典)「みんなの道徳4」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○本時のねらいとする道徳的価値について問題意識をもつ。 「きまりや約束を守れなかったことはありますか。」 ・早く遊びたくて廊下を走った。	◇日常生活の場面を思い出させきまりや約束を守れなかった気持ちから価値への方向付けを図る。
展開前段	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     みんなが気持ちよく生活するとはどういうことか考えよう。                 </div> ○資料を読み「よし子」の気持ちの変化を中心に話合う。  「お母さんに連れ戻されたときよし子さんはどんな気持ちだったのでしょうか。」 ・お母さんのせいで座れないじゃないか。 ・どうして連れ戻されたのかわからない。  「お母さんはよし子さんにどんなことを気付いてほしかったのでしょうか。」 ・バス停に並んでいたわけではないけど順番があること。 ・よし子さんは自分のことしか考えていないから周りの人のことも考えてほしいということ。	◇なぜ母に連れ戻されたのか分からず、不満を抱えている様子について押さえ、よし子の自己中心的な考えに気付かせる。  ◇「きまりではないのに、なぜお母さんは怒ったのだろう。」と補助発問することで規則でなくても、社会には一人一人が周りのことを考え行動することが必要な場面があることに気付かせる。
展開後段	○自己の生き方について考える。 「きまりでなくても、自分で考えて行動してよかったと思ったことはありますか。またしてもらってうれしかったことはありますか。」 ・急いでいても順番を守った。 「この授業を通してみんなが気持ちよく生活するために大切なことについて、考えたことを書きましよう。」 ・並ぶときや、みんなできめたルールを守る。	☆きまりの意義やよさを理解し、自分とのかかわりで捉えている。(発言、ワークシート)
終末	○教師の説話を聞く。	

# 第4学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日（金）第5校時  
 第4学年3組27名  
 授業者 柳 俊吾

主題名 気持ちよく過ごすために 内容項目（規則の尊重）

ねらい きまりやルールは、みんなが気持ちよく生活するためにあることを理解し、すすんできまりを守ろうとする態度を養う。

教材「雨のバス停留所で」（出典）「みんなの道徳4」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>○ 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識をもつ。                      「みんなが使う場所ではどんなきまりや約束がありますか。」                      ・病院や図書館では静かに過ごす。                      ・廊下では走らない。</p>	<p>◇日常生活の場面を思い出させきまりや約束を確認してから価値への方向づけを図る。</p>
	<p>みんなが気持ちよく生活するとはどういうことか考えよう。</p>	
展開前段	<p>○資料「雨のバス停留所で」を読み、話し合う。</p> <p>「お母さんに連れ戻されたときよしさんはどんな気持ちだったのでしょうか。」                      ・お母さんのせいで座れないじゃないか。                      ・どうして連れ戻されたのかわからない。</p> <p>「バスの中でお母さんの横顔を見ていたよしさんはどんなことを考えていたのでしょうか。」                      ・私が何か悪いのかな。・黙ってはいはわからない。                      ・お母さんは怒っているみたい。周りの人は私のことどう思っているんだろう。</p> <p>「よしこさんがバスの停留所の先頭に並んだ時、周りの人はどう思ったでしょう。」                      ・この子、ずるいな。・子どもだからってそれくらいわかってよ。・順番を守ってよ</p>	<p>◇なぜ母に連れ戻されたのか分からず、不満を抱えている様子について押さえ、よし子の自分本位な考えに気付かせる。</p> <p>◇バス停留所には人が並んでいないこと、雨宿りをしている人たちは早く来た順に並んでいることを押さえる。</p> <p>◇周りやよしさんの思いを比べ、自分本位の考えが正しかったのか、規則でなくても、周りのことを考え行動することが必要な場面があったことに気付かせる。</p>
展開後段	<p>○学習課題について考える。                      「きまりやマナーはなぜ必要なのでしょう。」                      ・みんなが使う場所を気持ちよく使うため。                      ・みんなが安心して過ごすため                      ・きまりやマナーを守ることでみんなとのよい関係を作ることができる。</p>	<p>☆きまりの意義やよさを理解し、自分とのかかわりで捉えている。（発言、ワークシート）</p>
終末	<p>○学習のまとめをする。                      「今回の学習で、自分に生かしたいと思うことを書いてみましょう。」</p>	<p>◇きまりの意義について考えたことを自分の生活にどのように生かすことができるかを一人ひとり考えさせる。</p>

# 第5学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時  
 第5学年1組30名  
 授業者 馬場 淳司

主題名 「親身な対応」 内容項目 (親切、思いやり)

ねらい 相手の立場に立ち、誰に対しても思いやりの心をもって接していこうとする心情を育てる。

教材 「くずれ落ちたダンボール箱」 (出典) 「みんなの道徳5」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○人に親切にしたときのことについて、生活経験を想起して発表する。 ・困っている人がいるとき。 ・助けになれて自分もうれしかった。	◇どんなときに人に親切をしたか、そのとき、どんな気持ちだったかを聞き、価値への方向付けを図る。
展開前段	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     親切な行動をする人は、どんな気持ちなのだろうか。                 </div> ○教材を読んで、話し合う。 「『明日香と未来』はどうして段ボールの片付けを手伝うことにしたのでしょうか。」 ・おばあさんが困っているから。 ・そのままにできないから。 「店員にしかられたとき、『明日香と未来』は、どう思ったでしょう。」 ・どうして怒られるのかわからない。 ・何も知らないのに言わないでよ。 「おばあさんからお礼を言われたとき、どんなことを思ったでしょう。」 ・お礼を言われたからまだよかった。 ・叱られてむしゃくしゃした自分が恥ずかしい。 ・手伝ってよかった。 「校長先生の話聞いて、『明日香と未来』はどんなことを考えたでしょう。」 ・自分たちのしたことが認められて嬉しい。 ・認められてうれしいが、怒られたことはすっきりしない。 ・手伝ってよかった。 ・困っている人がいたら助けよう。	◇話の内容を理解しやすくするために、挿絵を提示する。 ◇発表が難しい児童も自分の今の気持ちを表現させるために、心のものさしを使用する。 ◇自分の考えをもたせるため、ワークシートに登場人物の気持ちを書かせてからグループで話し合わせる。 ◇なんとなく救われた気持ちと、まだすっきりしない複雑な気持ちに気付かせるため、児童の意見を比較させる。 ◇価値項目に迫るため、店員に対する怒りが強い児童には、おばあさんの手伝いをした理由を振り返らせる。
展開後段	○周りの人に親切にするとき、これまでどんなことを考えていたかを振り返る。 ・自分のことばかり考えているのではなくて、相手のことも考えることを大事にしていた。 ・困っている人に気付くために、周りをよく見ておくことが大切だと考えている。	◇相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接しようとする言葉や行動については、意図的指名をし、友達のよさを広めるようにする。 ☆人に認められなくても、相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接することの大切さに気付いたか。
終末	○学習の振り返りを記入する。 ○親切に関する教師の体験談を聞く。	

# 第5学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時  
 第5学年2組30名  
 授業者 小川鈴奈

主題名 「親身な対応」 内容項目 (親切、思いやり)

ねらい 相手の立場に立ち、誰に対しても思いやりの心をもって接していこうとする心情を育てる。

教材 「くずれ落ちたダンボール箱」 (出典) 「みんなの道徳5」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○人に親切にしたときのことについて、生活経験を想起して発表する。 ・困っている人がいるとき。 ・人に相談されたとき。	◇どんなときに人に親切をしたか、そのとき、どんな気持ちだったかを聞き、価値への方向付けを図る。
展開前段	<p>「親切」にはどのような気持ち必要なのだろうか。</p> ○自分が相手に対して親切にした経験・うまく自分の気持ちが伝わらなかった経験を思い出し、発表する。 ○教材を読んで話し合う。 「『明日香と未来』はどうして段ボールの片付けを手うことにしたのでしょうか。」 ・おばあさんが困っていたから。 ・ちいさな男の子が心配だったから。 「店員にしかられたとき、おばあさんにお礼を言われたときの気持ちの変化について考えましょう」 ・自分たちは親切にしたのに怒られるのが納得いかない。 ・お礼を言われたから少しもやもやした気持ちがなくなった。 ・叱られて納得いかなかったけど、助けてよかった。 ・お礼を言われて少し嬉しくなった。 「校長先生の話聞いて、『明日香と未来』はどのような行動をしようと思ったのでしょうか」 ・本当の気持ちを分かってもらえたからこれからも困っている人がいたら親切にしよう。 ・みんなに紹介されて嬉しいからまた同じように行動しよう。 ・困っている人がいたらまた助けよう。	◇話の内容を理解しやすくするために、挿絵を提示する。 ◇登場人物の様々な気持ちを、気持ちの割合や文章で整理していく。 ◇ワークシートに登場人物の気持ちの変化を記入させ、グループで話し合いを行う。 ◇感情が複雑になっていることに気付かせる。 ◇価値項目に迫るため、店員に対する怒りが強い児童には、おばあさんの手伝いをした理由を振り返らせる。 ◇児童の考えに対して詳しく聞いたり認めたりすることで価値づけていく。 ◇登場人物の様々な気持ちを、気持ちの割合や文章で再度振り返る。
展開後段	○自分は困っている人がいたら今まで親切にしていたかを考える。また、どのような気持ちから親切な行動を行っているかを考える(グループで話し合う) ○意見を発表する。 ・自分も助けてもらったことがあるから ・相手の気持ちになって考えるけれどなかなか勇気が出ない。 ○授業の感想・振り返りを記入する。	◇相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接しようとする言葉や行動については、意図的指名をし、友達の良さを広めるようにする。 ☆人に認められなくても、相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接することの大切さに気付くことができたか。
終末	○親切に関する先生の体験談を聞く。	



# 第5学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時

第5学年3組30名

授業者 長森 陽介

主題名 「親身な対応」 内容項目 (親切、思いやり)

ねらい 相手の立場に立ち、誰に対しても思いやりの心をもって接していこうとする心情を育てる。

教材 「くずれ落ちたダンボール箱」 (出典) 「みんなの道徳5」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○人に親切にしたときのことについて、生活経験を想起して発表する。 ・困っている人がいるとき。 ・人に相談されたとき。	◇どんなときに人に親切をしたか、そのとき、どんな気持ちだったかを聞き、価値への方向付けを図る。
展開前段	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「親切」にはどのような気持ちが必要なのだろうか。</div> ○ 教材を読んで、話し合う。 「『明日香と未来』はどうして段ボールの片付けを手伝うことにしたのでしょうか。」 ・おばあさんが困っているから。 ・そのままにできないから。 「店員にしかられたとき、『明日香と未来』は、どのような気持ちだったのでしょうか。」 ・どうして怒られるのかわからない。 ・何も知らないのに言わないでよ。 「おばあさんからお礼を言われたとき、どのような気持ちでしたでしょうか。」 ・お礼を言われたからまだよかった。 ・叱られてむしゃくしゃした自分が恥ずかしい。 ・手伝ってよかった。 「校長先生の話聞いて、『明日香と未来』はどのような気持ちはだったでしょうか。」 ・自分たちのしたことが認めてもらえて嬉しい。 ・認めてもらえてうれしいが、怒られたことはすっきりしない。 ・手伝ってよかった。 ・困っている人がいたら助けよう。	◇心のものさしを使い、自分の今の気持ちを表現させる。  ◇グループで共有できるように、ワークシートに登場人物の気持ちを書かせ、グループで話し合うようにする。 ◇なんとなく救われた気持ちと、まだすっきりしない複雑な気持ちに気付かせるために、児童の反応を比較したり、切り返したりする。 ◇店員に対する怒りが強い児童には、おばあさんの手伝いをした理由を振り返らせる。  ◇今の自分の気持ちを挙手させる。
展開後段	○これまで自分が人に親切にすると、どのようなことを大切にしていましたか。 ・相手の立場に立って考えるとうことは考えていなかった。	◇相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接しようとする言葉や行動については、意図的指名をし、友達の良さを広めるようにする。 ☆人に認められなくても、相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接することの大切さに気付くことができたか。
終末	○親切に関する先生の体験談を聞く。	

# 第6学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日（金）第5校時  
 第6学年1組28名  
 授業者 吉本 美穂

主題名 「思いを形に」 内容項目（親切、思いやり）

ねらい 相手の状況を想像して温かい心と行為の関係を考え、相手の立場に立って思いやりの心を表していこうとする心情を高める。

教材「温かい行為が生まれるとき」（出典）「みんなの道徳 6」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○詩「行為の意味」の抜粋した動画を観る。 ○「こころ」と「思い」を伝えられた経験や、できなかった経験を発表する。	◇道徳的価値に対する関心を高めるために、親切的な行為をした経験やできなかった経験を出させる。
	「こころ」や「思い」は、どのようにして相手に伝えられるだろうか。	
展開前段	○『ある日、町の中で』を読んで、どんな行動をとるかを考える。 A:聴覚障害者が駅のホームでアナウンスが聞こえずに困っている場面 ・様子を見る。 ・困っていることに気付かない。 B:視覚障害者が白杖を使い点字ブロックの上を歩いているときに自転車が放置されている場面 ・「自転車ががあるから危ないですよ。」と声をかける。 ・自転車をどける。 C 終点について電車の椅子に横になって寝ている人が目の前にいる場面 ・気付かないふりをして立ち去る。 ・起こす。 ○「こころ」や「思い」はどのようにして相手に伝えたらよいかを個人で考え、その後グループで話し合う。 「困っている人が目の前にいて、『こころ』や『思い』を伝える時にどんなことが大切ですか。」 ・相手の立場にたって考えること。 ・誰に対しても思いやりをもつこと。	◇視覚的に理解しやすいようにするために、場面絵を提示する。  ◇全体で共有しやすくするために、グループで出た意見をタブレットを使ってまとめさせる。 ◇「こころ」や「思い」を伝えることのよさや難しさについて、多面的に考えることができるようにするために、具体的な場面での行動とその行動をとる理由を考えさせる。
展開後段	○今までの生活を振り返り、実際に困っている場面を考え、「こころ」や「思い」をどのように伝えられるかを個人で考える。 ・休み時間に低学年の子が一人でさみしそうにしていたら、話しかける。 ・行動しないと「こころ」や「思い」は伝わらないけど、伝え方は相手の状況を見て考えなければいけない。	◇考えた意見をタブレットを使ってまとめさせ、全体で共有しやすくする。 ☆相手の状況を想像して温かい心と行為の関係を考え、相手の立場に立って思いやりの心をこれからの自分の生活で表していこうとしたか。
終末	○詩「行為の意味」の朗読を聞く。	◇学習のまとめとして朗読を聞くことで、相手の立場に立って考え、行動にうつすことの大切さ再認識して、これからの生活に生かそうという道徳的実践意欲と態度を高める。

# 第6学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日（金）第5校時

第6学年2組28名

授業者 大槻 二深

主題名 「思いを形に」 内容項目（親切、思いやり）

ねらい 相手の状況を想像して温かい思いと行為の関係を多様に考え、相手の立場に立って思いやりの心を表していこうとする心情を高める。

教材「温かい行為が生まれるとき」（出典）「みんなの道徳 6」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○詩「行為の意味」の抜粋した動画を観る。 ○「こころ」と「思い」を伝えられた経験や、できなかった経験を発表する。	◇親切な行為をした経験やできなかった経験を出させ、本時の道徳的価値に対する関心を高める。
	「こころ」や「思い」は、どのようにして相手に伝えられるだろうか。	
展開前段	○「ある日、町の中で」や、児童の身近にありそうな事例を提示する。自分はどのような行動をとればよいかということや、なぜその行動をとることにしたのかについてグループで考える。 A聴覚障害者が駅のホームでアナウンスが聞こえずに困っている場面 ・様子を見る。 ・メモに書いて伝える。 B視覚障害者が白杖を使い点字ブロックの上を歩いているときに自転車が放置されている場面 ・「自転車があるから危ないですよ。」と声をかける。 ・自転車をどける。 C授業でグループ活動をしようとしている時に、一人である子がいた場面 ・「一緒に話そうよ。」と声をかける。 ・「何か困ったことがあるのか。」と声をかける。 ・そっと何をしているか様子を見てから声をかける。 ○グループで考えたことを発表する。 ○3つの行動に共通している「こころ」や「思い」は何かを考える。 ・相手の立場にたって考えること。 ・思っているだけではなく、考えたことを行動すること。 ・相手のことを考えすぎて行動できないこともあるけれど、余計なお世話にならないように行動することも大事だということ。	◇場面絵を提示し、視覚的に理解しやすいようにする。  ◇まずは個人で考える時間を設ける。多様に考えられるように、可能性として考えられることを挙げ、自分だったらどうするか、付箋に書く。グループで話し合う時に、分類分けしやすいうようにする。  ◇グループで出た意見についてタブレットを使ってまとめさせ、全体で共有しやすくする。  ◇3つの行動に共通している「こころ」や「思い」を考えさせることで、その行動を支えている道徳的価値に気付かせる。
展開後段	○今までの生活を振り返り、実際に困っている場面を考え、「こころ」や「思い」をどのように伝えられるかを個人で考える。 ・休み時間に低学年の子が一人でさみしそうにしていたら、話しかける。 ・片付ける人のことを考えて、給食の食器をきれいにもどす。 ・行動しないと「こころ」や「思い」は伝わらないけど、伝え方は相手の状況を見て考えなければいけない。	☆相手の状況を想像して温かい心と行為の関係を考え、相手の立場に立って思いやりの心をこれからの自分の生活で表していこうとしたか。
終末	○詩「行為の意味」の朗読を聞く。	◇学習のまとめとして朗読を聞くことで、相手の立場に立って考え、行動にうつすことの大切さ再認識して、これからの生活に生かそうという道徳的実践意欲と態度を高める。

# 第6学年 道徳科学習指導案

令和6年6月28日(金) 第5校時  
 第6学年3組29名  
 授業者 山口 哲郎

主題名 「思いを形に」 内容項目 (親切、思いやり)

ねらい 相手の状況を想像して温かい心と行為の関係を考え、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。

教材 「温かい行為が生まれるとき」 (出典) 「みんなの道徳 6」 Gakken

展開

	○学習活動 「主な発問」 ・予想される児童の発言	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	○詩「行為の意味」の朗読を聞き、感想を発表する。 ○親切な行為をした経験やできなかった経験を発表する。	◇親切な行為をした経験やできなかった経験を出させ、本時の道徳的価値に対する関心を高める。
	『こころ』や『思い』は、どのようにして相手に伝えられるだろうか。	
展開前段	○『ある日、町の中で』を読んで、考え、グループで話し合う。  「Aさん、Bさんのような様子を見かけて、最初に思うことは何でしょう」 A: 聴覚障害者が駅のホームでアナウンスが聞こえずに困っている場面 ・困っているか分からないので、何かしたほうがよいか気付かない。 B: 視覚障害者が白杖を使い点字ブロックの上を歩いているときに自転車が放置されている場面 ・白い杖から、目の不自由だということが分かるので、自転車がぶつからないように声をかけられる。 ○困っている人を見つけたら、どうすればよいか、グループで考え発表する。 ・Aさんの場合は、身振りやメモに書いて伝える。 ・「何かお手伝いすることはありますか。」と尋ねる。	◇場面絵を提示し、視覚的に理解しやすいようにする。  ◇グループで出た意見をタブレットを使ってまとめさせ、全体で共有しやすくする。  ◇具体的な場面での行動とその行動をとる理由を考えさせることで『こころ』や『思い』を伝えることよさや難しさについて、双方の立場から多面的に考えることができるようにする。
展開後段	○生活の中で、実際に困っている場面を考え、一人一人ができることを考える。 ・休み時間に低学年の子が一人できみしそうにしていたら、話しかける。 ・片付ける人のことを考えて、給食の食器をきれいにもどす。 ・行動しないと『こころ』や『思い』は伝わらないけど、伝え方は相手の状況を見て考えなければいけない。	◇考えた意見をタブレットを使ってまとめさせ、全体で共有しやすくする。  ☆相手の状況を想像して温かい心と行為の関係を考え、相手の立場に立って思いやりの心をこれからの自分の生活で表していこうとしたか。
終末	○詩『行為の意味』の動画を見る。	◇学習のまとめとして朗読を聞くことで、相手の立場に立って考え、行動にうつすことの大切さ再認識して、これからの生活に生かそうという道徳的実践意欲と態度を高める。